



新規加盟校紹介



FD活動と「その大学らしさ」

湘南医療大学 副学長 片山 容一



湘南医療大学は、平成27年4月に開学したばかりです。保健医療学部、看護学科およびリハビリテーション学科の理学療法学専攻と作業療法学専攻が開設されています。大屋敷英志枝理事長・学長のもと、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という理念をかがけ、高度な知識と技術を修得するとともに、多くの人々と協働しながら、次世代のリーダーとなる保健医療人の育成を目指しています。

湘南医療大学の母体は、神奈川県内で最大の医療法人・学校法人である「湘南ふれあいグループ」です。法人として、すでに多くの医療・福祉・教育施設を持っており、各々に優れた人材を擁しています。なかでも、歴史のある看護やリハビリテーションの専門学校は、教員と学生の距離が近いことも特徴としており、きめ細かな指導をすることによって有為の人材を輩出してきました。このような環境と実績を最大限に生かすことによって、湘南医療大学を特色ある教育機関に発展させていきたいと願っています。

FD活動には、開学の前から重点を置いて準備を進めてきました。開学に合わせて集まった教員は、みな前任の大学でFD活動に加わった経験があります。各々の大学がFD活動に取り組むようになってから、もう15年くらいが経っていますし、これが義務化されて7年が過ぎていきますから、当然のことでしょう。

教員一人ひとりの教育能力を高めるという意味でのFD活動については、ほとんどの教員が豊富な知識と経験を持っています。各々の教員の経験してきたFD活動の手法は、授業評価や授業参観あるいは研修会の開催など、表向きは似たりよったりですが、こうした経験があることは、湘南医療大学でのFD活動を始めるにあたって大いに役立ちます。

ただ、一つ気がついたことがあります。FD活動の目的は、教員一人ひとりの教育能力を高めることだけではありません。教員組織としての教育機能を全体として充実させることも大切な目的です。気がついたというのは、それを意識していない教員が少なくないということです。

教員組織としての教育機能は、各々の大学の「その大学らしさ」と不可分です。伝統のある大学には、多くを語らずとも分かり合える「その大学らしさ」があります。そうした環境で育った教員は、意識して教員組織としての教育機能を議論することがあまりなかったのではないのでしょうか。

新設の大学では、そういうわけにはいきません。これから、大学の存在価値を主張しようというのですから、否応なく教員組織としての教育機能が問われることとなります。これは、新設の大学だからこそ、より鮮明に浮き彫りになってくるFD活動の一面だと思います。

こうした意味でのFD活動は、その内容も成果も、各々の大学によって多様であるはずですが、もちろん、他の大学のFD活動を参

考にすることは大切です。しかし、ただ真似をするだけでは、「その大学らしさ」に誇りを持つことなどできません。また、その大学の学生が共鳴してくれるものでなければ、教育機能の充実にもつながりません。

全教員がFD活動に参画することの意義はこういふところにもあるのだと思います。私も、前任の大学で15年ほどFD活動に関わってきましたが、改めてFD活動の奥深さを認識しました。このたび、FDネットワークつばさに加盟させていただき、誠に心強く感じています。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

